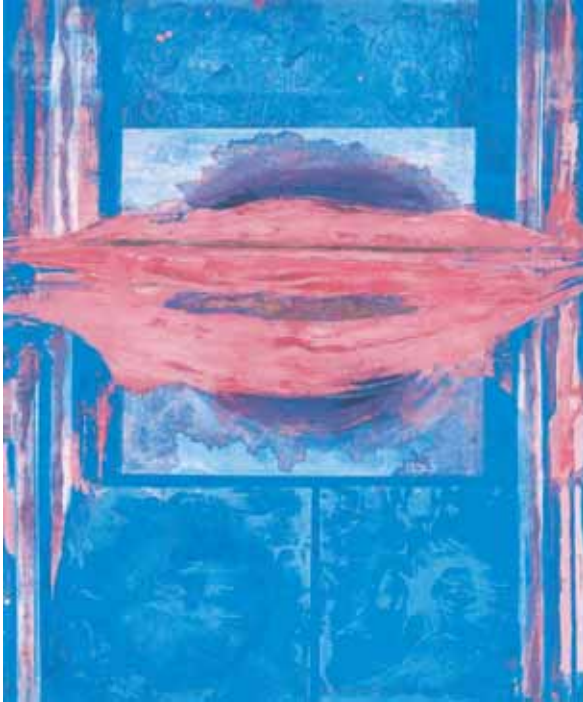


龍ヶ崎ロータリークラブ

Weekly Report

「TRANCE」

山中宣明 / 公益社団法人二科会
茨城県美術展覧会
委員長



本日のロータリーソング

「我等の生業」

我等の生業
さまざまなれど
集いて図る 心は一つ
求むるところは
やわらぎむつみ
力むるところは
向上 奉仕
おゝロータリアン
我等の集い



◆ 本日のプログラム ◆

卓話 倉沢ガバナーノミニー

◆ 今後の予定 ◆

- 11/26プログラム 卓話 創立記念日
- 12/10プログラム 前期事業報告

- 12/3プログラム 祝事 年次総会 次期会長卓話
- 12/20プログラム 家族忘年会 (12/17の振替)

◆◆◆ 例会記録 2013年11月12日(火) 晴 ◆◆◆

点 鐘 杉野会長

ロータリー・ソング 四つのテスト

ゲスト 横山 善英さん(ロータリー財団委員会地区補助金担当)

出席報告 久保委員

会員数	出席数	出席率	出席免除	先々週の訂正出席率
38名	29名	76.32%	1名※2	91.89%

※1:クラブ定款第9条第3節 ※2:クラブ細則第11条

欠席 糸賀さん 沼野さん 櫻井さん 神山さん 工藤さん
服部さん 眞鍋さん 佐伯さん ※2 波多野さん

メイク・アップ

・倉沢さん 岩田さん(牛久RC) 秋田さん(龍ヶ崎中央RC)

会長報告

・今年もいよいよ2ヵ月を切りましたが、今週は親睦旅行があります。そんな最中ではありますが、世界中で甚大な災害が後を絶ちません。フィリピンでは台風30号の影響で何と死者約1万人というニュースには桁違いの驚きです。徐々に日本を含め、世界中で自然災害の規模が以前より大きくなっているのはやはり、森林伐採やCO2の排出がポドローの様効いてきているのでしょうか。この当たりの分野に於いても、ロータリーが一役買う事が出来れば良いですね。また芸能関係では、島倉千代子さんのご逝去もショックな方が多かったのではないのでしょうか。この後、年内に何事もないことをお祈ります。それでは報告事項を準に申し上げます。まず、先週の理事会での報告ですが、

・12月の例会のプログラム

第1例会	12月3日	年次総会、次期会長卓話
第2例会	12月10日	前期事業報告
第3例会	12月20日	家族忘年会(12/17の振替)
第4例会	12月24日	休会②(定款第6条1節C)
第5例会	12月31日	休会③(定款第6条1節C)
平成26年	1月7日	新年会(松泉閣) 18:30~

・新会員の承認について
先般、秋田会員より新会員の推薦書を預かりましたので、クラブ細則13条の第3節の通り、理事会に諮り承認されましたので次の手続きに入ります。

名前: 小島 律子 (コジマ リツコ) (40歳)
職種: 株式会社 セレモニー小島 代表取締役
住所: 龍ヶ崎市新町4420-1
分類: 葬祭・セレモニー
(本日ハガキを送付します。)

・中黒(・)の使用方針変更について
国際ロータリー日本語課より、これまで国際ロータリーの翻訳において「ロータリー・クラブ」や「ガバナー・エレクト」など多くのカタカナ用語に中黒(・)を入れて表記していましたが、昨今の日本での表記が中黒を使用しないクラブが多くなっている為、現況を鑑み、今後は判読困難な場合(パッケージ・ブランドなど)や3語(地区リーダーシップ・プランなど)の複合以外は「・」を表記しないとの連絡がありました。

・ガバナー事務所より先日の公式訪問に際し礼状が届きましたのでご報告します。

最後に、先週の案内の通り、本日の例会終了後、2015~2016年度の会長を推薦する指名委員会がありますので、会長経験者の居残りをお願いします。

幹事報告

・龍ヶ崎中央ロータリークラブより 例会の変更の案内が来ております。
11月29日(金)の例会は17:00より、場所は「わらく」移動例会(親睦会)の為。
・本日ガバナー公式訪問の時の記念写真を配布致しました。

委員会報告

・糸賀職業分類委員長が欠席の為、代理で報告します。現在、分類は17項目の区分けがありますが、新会員候補の職業を考慮し、持ち回り会議を行い新たに「葬祭・セレモニー」の項目を追加する事となりましたので、報告します。

プログラム内容

・出前卓話 ロータリー財団卓話 横山 善英さん(龍ヶ崎中央RC)

点 鐘 杉野会長

会長 杉野 訓男

幹事 八木 徹

SAA 山崎 恭弘

例会日: 火曜日 12:30~13:30 例会場: 〒301-0011 龍ヶ崎市横町4209 常陽銀行竜崎支店2階

龍ヶ崎ロータリークラブ (R1第2820地区第7分区) 創立1959年11月25日

E-mail: starall@beige.ocn.ne.jp

☎090-3335-7349

ホームページ http://ryugasaki-rc.org/

スポンサークラブ: 土浦ロータリークラブ

姉妹クラブ: 仙台東ロータリークラブ

出前卓話



未来の夢計画

ロータリー財団卓話

横山 善英さん（龍ヶ崎中央RC）

皆様こんにちは。龍ヶ崎中央RCの横山です。本日は地区財団委員の立場でお伺いいたしました。龍ヶ崎RCにおかれましては、次々年度のガバナーを輩出されるクラブとお聞きしております。地区として行なうロータリー運営の中でも、この未来の夢計画は簡素化されたとは言え、複雑な面も多く残しており、かつ非常に重要視されております。なによりも、地区補助金、グローバル補助金に関しましては、全面的に地区に裁量権を与え委ねましたので、地区、ガバナーとしての責任の度合いは、これまでの財団とは比較にならない程ズシンのしかかっております。それでは、パワーポイントを使っての「未来の夢計画について少しでも皆さんに、ご理解をしていただきたいと思ひます。尚、昨年の、PPTと、多少異なるところがあるかと思ひますが復習をかねて視ていただけたら幸いです。

「未来の夢」計画とは何でしょう



未来の夢とは、人道的プロジェクトや教育的プロジェクトを実施する地区やクラブをサポートするための、ロータリー財団の新しいモデルです。

■未来の夢計画

未来の夢とは、人道的プロジェクトや教育プロジェクトを実施するため、地区やクラブをサポートするためのロータリー財団の新しいモデルです。

■目的：

- ①財団の使命に沿って、プログラムと運営を簡素化すること。
- ②ロータリアンが関心を寄せている世界の優先的ニーズに取り組むことによって、最大の成果が期待できるロータリアンの奉仕活動に焦点を絞ること。
- ③世界的目標と地元の目標の両方を果たすための資金を提供すること。
- ④意志決定権をさらに地区とクラブに移行することによって、

地区レベルとクラブレベルで、ロータリー財団が自分たちのものであるという自覚を高めること。

- ⑤ロータリー財団の活動に対する理解を深め、ロータリーの公共イメージを高めること。

■6つの重点分野：

- ①平和と紛争予防/紛争解決
- ②疾病予防と治療
- ③水と衛生
- ④母子の健康
- ⑤基本的教育と識字率向上
- ⑥経済と地域社会の発展

■3つの補助金

- ①新地区補助金
- ②グローバル補助金
- ③パッケージ・グラント

■3つのプロジェクト

- ①奉仕・人道的プロジェクト
- ②奨学金
- ③職業研修チーム（VTT）

■財団の使命

ロータリー財団の使命は、ロータリアンが、健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすることである。

旧プログラムと新プログラム

旧プログラム		新プログラム	
地区補助金 DDF(地区財団活動資金)の20%以内 人道的プロジェクトのみ	改革	● 地区補助金 DDFの50%以内で、人道的、教育的 社会奉仕的な多様な分野のプロジェクト可	
ボランティア奉仕活動補助金	廃止		
国際親善奨学金	廃止	● グローバル補助金 - 補助金額 15,000ドル～200,000ドル - 6つの重点分野に関するものであれば、人道的、奨学金、職業研修チームに関するプロジェクトを自由に立案出来る。	
マッチング・グラント 1件当り、5,000ドル以上、150,000ドル以内、人道的のみ	改革	● パッケージ・グラント - 補助金額 50,000ドル～上限は相談次第 - 財団が立案し、戦略パートナーと合同で、長期的で大規模なプロジェクトを実施するもので、戦略パートナーとの協力の下、ロータリアンがプロジェクトの実施にあたる。	
G S E	廃止		
3 - H 補助金	廃止		
大学教員のための補助金	廃止		
世界平和フェロシップ	継続	● ロータリー平和センター	
ポリオ・プラス (ポリオ・プラス・パートナー)	継続	● ポリオ・プラス (ポリオ・プラス・パートナー)	

■ 地区補助金の金額

新地区補助金は、恒久基金のシェア収益を含む地区の3年前の年次プログラム基金寄付から生じたDDFのみによって支給されます。

毎年、DDFの50%までを申請することができます。未使用の新地区補助金は財団に戻され、地区のDDFに返還されます。DDFは、このまま使用されなければ地区の残高として翌年に繰り越しされ、繰り越されたDDFは、新地区補助金の額を算出する際に加算されることはありません。グローバル補助金又は寄贈に使用することが可能という意味です。



■ ポール・ハリス・ソサエティ

ロータリー財団は、生涯にわたって続くパートナーシップと専門知識を生かした草の根レベルの活動を通じて、地域社会の改善に力を注いでいます。地域に根ざしたプロジェクトから、ポリオ撲滅活動のような世界的な取り組みにいたるまで、ロータリーの活動を継続していく上で、ポール・ハリス・ソサエティのメンバーによる支援が大きな力となります。ロータリー財団寄付者のうち、ポール・ハリス・ソサエティまたはそれ以上の寄付者の割合は3%に満たないものの、その寄付額は年次寄付全体の35%に及びます。これらの寄付は、グローバル補助金、地区補助金、ポリオ撲滅活動、職業研修チーム、奨学金など、さまざまな重要な取り組みを支えるために活用されます。



■ 2013-14年度

2820地区目標寄付額

年次寄付 130ドル
 ポリオ 20ドル 会員1人当たり 150ドル
 (ゼロ・クラブは、絶対なくしましょう)

恒久基金 1,000ドル
 (クラブ1名以上お願いします)

大気中の浮遊微小粒子状物質「PM2.5」について

最近、「PM2.5」という言葉をよく耳にします。(正しくはPM2.5ですが今回はPM2.5と書きます) 11月初めに千葉県市原市で東日本では初めての「注意喚起情報」が発令されました。丁度先週、千葉市でこの分野の専門家である兵庫医科大学・島正之公衆衛生学教授の講演を聴きましたので御報告します。

「PM2.5」という何か新しい大気汚染物質が現れたように思われがちですが、「PM2.5」とは大気中に浮遊している粒子状の物質の中で「粒径2.5 μ m(マイクロメートル)以下の微小粒子状物質の総称」です。このように2.5 μ m以下の粒子はすべて含まれます。どのようなものがあるかということ、燃料を燃やしたり、物を砕いたりして出る煤塵や車の排気ガスなど、ほとんどが人間の活動に伴って出る人工的な物や化学物質です。タバコの煙も含まれます。一方、砂ぼこりのような土壌粒子や火山灰、海の塩などの自然界の物質はほとんどが2.5 μ m以上で、中国の黄砂は4 μ m前後だそうです。ちなみに植物の花粉類は10~100 μ mです。

環境省の暫定的環境基準は1日平均35 μ g/m³以下で、70を超えると「注意喚起情報」が出され、不要不急な外出や屋外での長時間の激しい運動は控えるのが望ましいとされます。先日の市原市がこれでした。ただし、この値を大きく超えない限り、一般の健康な人に影響を及ぼすことはないもので、運動会などの屋外行事を中止する必要もなく、あまり過度に神経質になる必要はないとのこと。 「大きく超える」というのは150以上で、日本ではまずおこらないそうです。さらに日本国内ではディーゼル車の排気ガス規制などが進んだおかげで、この10年でPM2.5の濃度はむしろ少しずつ下がってきています。ただし、中国では急速な都市化と工業化、経済開放による生活様式の変化に伴って、自動車の排気ガス、冬季の石炭暖房、工場からの煙などによる大気汚染はやはり相当に深刻なようで、PM2.5濃度の観測データからも裏付けられています。

微小な粒子ほど肺の奥深くに入り込みやすいので、今のところ「PM2.5」の健康への影響で明らかなのは小児の気管支喘息、成人では慢性閉塞性肺疾患(COPD)などの慢性的な呼吸器疾患です。しかし今後、中国の大気汚染の増大などに伴って日本国内の「PM2.5」も増加し、それが長期化するようであれば健康への影響を見守っていく必要はあるようです。

(文責：野上 哲夫)

家族親睦旅行

渡利 千里さん

12名の参加ではやや寂しかったが15日午前6時30分に市役所前をバスで出発、常磐道、磐越道、東北道をひた走る中を親睦委員会心づくしの菓子と飲み物、山崎君持参の山形の清酒嵐山等もいただいた。昼食は一関の「世嬉の一酒造」の1918年に造られた酒蔵を改装したレストランで懐かしいスイトン料理の和定食、しかし同時にドイツのアイスパインまで出された。

その後平泉にまわり世界文化遺産の中尊寺と金色堂を参拝した。850年に比叡山の高僧により開山された後に奥州藤原氏初代の清衡公が戦乱（前9年・後3年の合戦）での戦没者の慰霊と戦争のない平和な理想社会の実現を祈って造営したと言われ、莫大な経済力の背景があったからとは言え、そこに既にロータリーの理想と日本国憲法の理念を垣間見ることができた。

傘持参で出掛けたが降られることもなく、午後5時には車外は薄暗くなり、周辺の津波による被災の状況は定かには見えなかった。到着した「ホテル観洋」は想像を絶する大きさでやや高台にあるそのホテルの2階の天井まで海水が来たと聴き驚いた。

巨大な温泉風呂に浸かった後6時30分から会食、杉野会長の挨拶と乾杯発声もそこそこに宴会となった。

毎週顔を合わせている同士でも一晩ゆっくり話し合うと、その中にロータリー活動に対する新たなアイデアも湧きまた反省も出て、ここに親睦旅行の意義がある。さらに各部屋に戻り談話は続いていたが、早朝からの疲れで間もなく静かな夜の訪れとなり、その静寂を破る深夜のイビキだけは止むを得ないものであった。

翌16日は9時に出発、前日よりさらに好天で北国でも陽射しが暖かくホテルからほど近い南三陸町の津波被害の現場に出た。

地元で被災されて今もなお仮設住宅におられる後藤氏からの3.11当日の様子の案内には一同は驚く外なかった。20mを越す津波で町の人口1750のうち800人が亡くなったのである。津波予報で高台に避難するように放送をし続けて亡くなった若い女性がいた防災対策庁舎と書かれた看板の存在も恨めしく、3階の建物は鉄骨だけが骸骨のように残っておりそこでも47名以上が他界されたという。

花を捧げ線香を焚き手を合わせる人々が行列をしていた。町の復興は未だ殆ど見られず、痛手の快復にはあと何年の時間が必要なのだろうか。ここでは観光ではなく言葉もなく遺恨、慰霊の旅となったのであった。

さて、後藤氏からの教訓は復習してここに記すに値する。即ち大災害時には消防や警察等に頼らず、自分自身で命を守れということに尽きるのである。天災は仕方がないが、天災に人災を上乗せしないで人間の知恵と行動で軽い被害で済ませる可能性を求めること、そのときには過去の経験は役に立たないことなどである。

昼食は松島の「雲外」で豪華な懐石料理を堪能して、隣の円通院の庭では緑から深紅まで多くの紅葉を觀賞したが苔に落ちた赤い葉も美しくまさに見頃であった。それから伊達政宗公が念入りに作らせて守った瑞巖寺の大位牌などの文化財を見学したが、残念ながら瑞巖寺の本堂は修理中で非公開であった。

帰りが近くなると里心、家心が起きて家に早く帰りたい者とまだ帰らずに外で酒を飲みたい者と二分されるようであるが、バスは無心に高速を走り予定通り午後7時に龍ヶ崎に帰還。この旅行で周到な予定を組み大変な努力をしていただいた沼野委員長に感謝する一方、平成観光が大赤字を出したのでないかが心配になる2日間の旅であった。

ニコニコボックス

本日の合計

8件 ¥15,000

本年度累計

238件 ¥762,000

¥2,000

・横山さん 本日は宜しくお願ひします。

¥3,000

・秋田さん 横山さん宜しくお願ひします。

¥2,000

・山崎さん 横山さん本日の卓話をよろしくお願ひ致します。

・倉沢さん 横山さんを歓迎して。

・杉野さん 龍ヶ崎中央RCの横山さんを歓迎して。

・小島さん 横山さんを歓迎して。

¥1,000

・柴田さん 先日会長の幼なじみから会長がバドミントンの国体選手だったと聞きました。目にもとまらぬスマッシュだったと言っていました。

・大竹さん 早退します。

例会に欠席の方は当日午前10時までに副SAA柴田さん（☎0297-94-0771）に必ずご連絡ください。